

第2回新しい学校づくり吉野川市・阿波市地域協議会議事録

(食物科について)

委員

参考資料を見ますと、吉野川市・阿波市から小松島西高校の食物科へ入学を希望する生徒が少ないように思います。これは小松島西高校に入学するのが時間的、距離的に遠いためなのでしょう。それとも食物科に入学を希望する生徒が少ないからでしょうか。新たに食物科を設置したときに、地域の生徒がどのくらい入学を希望するのかがわかりません。また、食物科を設置することは中学校に広報する必要があると思います。

委員

14, 15 年前の調査では小松島西高校の食物科は手堅い人気があったように思います。当時はグルメブームもあり、食物科の関心は高かったと思います。今の状況がわかれば参考になりますので、教えていただけたらと思います。

事務局

小松島西高校は専門高校で全県一区なので、県内の広い地域から進学してきています。6月、9月の進学希望調査とも1.5倍ほどの希望がありました。

(学校の基本方針について)

委員

両校の素晴らしい取り組みを見せていただいて感動しています。新しい学校像については、今の取り組みをそのままに両校一緒になれば、夢があって非常に素晴らしい学校になると思います。私もこの歳ですが、入学して頑張りたいと思うほどでした。商業、農業がそれぞれの良さを活かし、相乗効果的に新しい学校像に取り組んでいただきたいと思います。

これだけの素晴らしい取り組みを今まであまり知りませんでした。一般の方々もおそらく知らないで、小中に通うお子さんを持つ方だけでなく、一般市民の方々にこんなことをしていると広報してほしいと思います。これが新しい学校を作っていく上でひとつの力になります。

吉野川市・阿波市も子どもが少なくなってきました。町の活性化、市の活性化は人がいないことには考えられません。できるかぎり地域の学校にとどまってもらえるような教育を行うべきです。それができれば、両市が活性化していきます。これまでのように特色ある学校教育を進め、もっと多くの方が魅力を感じて、地域に残ってもらえたらありがたいと思います。

委員

両校の素晴らしい取り組みを拝見し、嬉しく思いました。しかし、これをほとんどの人が知らないと思います。中学校でもこれだけの素晴らしい内容が生徒達に伝わっていないと思います。今後は十分にPRしていただければと思います。

委員

昔に戻れるのならどちらかに入学して人生をやり直したいと思いました。普通科高校は知識偏重で受験のために毎日を過ごしている生徒がたくさんいます。専門的知識、技能を身につける両校の教育方針によって、自分に自信を持てる生徒が増えていくと思います。また、生きる力も身につく素晴らしい教育方針ですので、ぜひともPRを進めてください。この両校の教育方針が分かれば、食物科を希望する生徒さんが増えると思います。

委員

説明を聞いて、両校の先生方が色々と工夫されているのがよく分かりました。

これまでの両校の取り組みは、地域連携、社会連携ができていますので、それを活かしていけば特色ある学校づくりは自ずと方向性が見えてくると思います。

今、学校が抱える問題は少子化です。学校それぞれが特色を出さなければならないのに、子どもが少なくなっています。部活動をするにしても子どもが少ないことが問題です。子どもが少ないと教員も少なくなります。そこに矛盾があります。特色ある教育を行うためには、何かをカットしたり省略して、重点を打ち出さなければならないという問題が出てきます。

高校再編の根本は少子化です。子どもが少なくなると単一で高校を維持できなくなります。統合することで人数を増やし活性化に繋げるという考え方です。しかし、統合する流れと特色ある学校づくりはベクトルが少し違うように感じます。特色ある教育は少人数で様々なことを行うことで細分化することになります。細分化するとなれば人数に制約ができません。片方では再編で人数を増やす、片方では細分化するという、ベクトルが違うのではと疑問があります。

また、高校入試にしても生徒が入りたい学校を選択することで、地域の生徒が県下に散らばることと、地域の生徒が地域で落ち着いて勉強することも違うベクトルになります。

量的なものを追求することと、特色ある学校づくりは共通するところもありますが、違うところもあります。そこを協議する必要があると思います。

委員

質と量の調整が必要であると思います。それが協議会を進める上で重要な点です。量も必要ですが、それに伴い質が向上していかなければ再編しても時代の情勢に沿わない状況も生まれてきます。現在まで学校、地域が作り上げてきた両校の伝統を外すことはできません。今後も伝統が生きていくようにしなければ、新しいものを作っていくことは不可能だと思います。今まで大切にしてきたことはこれからも大切にしていける必要があります。その上で、現在の状況、特に少子化を考え、可能な限り生徒の希望が達成されるようにしていくことが大切と考えます。

委員

鴨島商業をはじめとする商業高校から社員を採用しています。IT、情報処理の教育をしていただいているので、即戦力として役立っていますが、逆に会計の能力が少し落ちてきているように思います。新しい学校ではこれらの能力を高める教育を行っていただきたいと思います。

以前に阿波農業高校に菊人形の菊を作ってほしいと依頼したことがありますが、菊人形の菊は栽培が難しく、出来ないと言われました。鴨島の菊人形は西日本唯一であり、徳島の誇れるものだと思っています。新しい取り組みとしてこのようなこともしていただければありがたいと思います。

委員

教育の難しさの中，教育関係の方々にはたいへんお世話になっております。家庭での事件も含め，特に若年層の事件が問題になっているように思われます。最近は思いやりの心がわからない子どもが多いように思います。最近の子どもはこれ以上してはいけないということが分かっていない子どもが多くなっているように思います。

阿波農業の説明でもあったように，動物を飼育したり，草花，自然，農作物に関する教育を行うことで，純粋な生徒が育つことが，これからの日本にとって大切なことだと思います。隣近所，地域，日本国民が皆仲良くというような気持ちが生まれる教育が大切です。

礼儀作法ができていない生徒も多いので，それも教育してほしいと思います。

阿波農業では，先生方が生徒に愛情を持って教育をしてくれていて，とても感謝しています。

学校ばかりにいろいろとお願いをするのは申し訳なくも思いますが，地域社会が一緒になって，家庭，学校，生徒が手をつないで，日本の農業や若い人の将来を見据えた教育を再構築して頂けたらと思います。

委員

鴨島商業は昭和32年に町立の学校として創立し，昭和37年に県立高校となった経緯があります。創立当初の地域の期待，取り組みを継続してきています。最初の思いを常に大切にして，新しい学校を考えていく必要があります。

説明を聞かせていただいて阿波農業も特色のある取り組みをしていると感じました。昨年の阿波農祭に参加しましたが，開催時間の前から大勢の人が集まっていました。学校が地域に根付いて伝統ある取り組みをしているから，地域の期待を担って，今日までであるとともに，これからも伸びていく学校なんだなと実感しました。

私自身，阿波市で生まれ，現在は吉野川市に住んでおりますので，両校を身近に感じております。また，中学校を卒業した生徒をたくさん育てていただきました。中学校では不登校だった生徒が，高校で学校に通えるようになっていきます。両校とも特色を活かした取り組みの中で生徒を生き生きとさせていることが大事だと思います。これからの学校づくりの中でも活かしていけたらと思います。中高の連携も出前授業など積極的に取り組んでいただいているし，交流を大切にしながら，共に歩んで行けたらと思います。

委員

新しい学校づくりということで，当初は生徒数の少ない2校をただ統合すると考えており，どんな高校ができるのか不安に思っていました。しかし，先程の両校の説明を聞いて，共通点を見いだすことができ，非常に相乗効果もあると思えました。今は魅力ある学校づくりができるという希望が見えてきました。

委員

両校の基本方針は似たところがあり，素晴らしい中身であるし，これまでも学校に努力していただいていると思います。

全体的に職業教育のレベルがあがり，周りに認めてもらわなければなりません。普通科教育，大学に行く教育もひとつの方法ですが，人間は自然と一緒にいることが大切です。両校がそれぞれの特色を活かして，統合されれば，素晴らしい学校になると思います。農業体験や自然体験を大切に，それを基盤にして生徒が生き生きと活動して行くには，それが生活の糧になることが重要です。起業家として活動できることやそれぞれの分野のスペシャリストとなることです。生徒たちが生き生きと元気になるためには，やはり自然ともしっかりと格闘する必要があります。ものをつくり，ものが売れることが生活の足しになることは基本であり，それが社会的にも容認されるような内容にしていかなければならないと思います。魅力ある学校ができそうだという皆さんのご意見を聞いて，私も応援していきたいと思えます。